

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072900394		
法人名	社会福祉法人 ふたば会		
事業所名	グループホーム 幸		
所在地	福岡県小郡市寺福重949-40		
自己評価作成日	平成22年11月2日	評価結果確定日	平成23年1月14日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成22年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成17年に開設した時点から、“幸”は地域の住民の一員であり、地域の住民の人たちがいつでも入りできるグループホームでありたいと願い、積極的に地域の行事に参加したり幸の活動を広報誌で回覧したりしてオープンにしてきた。お陰様で、今では地域の人々から認知症介護に対する理解や協力が得られ、避難訓練には“幸”地域協力隊も出来、年2回の訓練に地域住民の方の協力参加も増加し、地域の皆さんに守られていることを実感できる。また、定期的に演奏会や車いすレクダンス等を開催し他のグループホームの利用者さんや職員の方達が気軽に顔を出せる機会を作り交流を深めている。幸では認知症になっても介護が必要になっても安心して馴染みの環境の中で生活できる地域づくりと明るく笑顔で生き生きと働ける職場環境づくりに力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

西鉄小郡駅に程近い住宅地に位置しており、1階は地域交流室、2階が1ユニットのホームとなる。近隣住民の方々との連携により、災害時の「幸」地域協力隊が結成されており、実践的な訓練の様子はモデルケースとして市報に掲載される等、特筆すべき取り組みがある。また、地域の要請による定期的な介護教室の開催や認知症サポーター養成研修への協力、日常的なふれあい等の機会を通じて、ホームや認知症への理解を育みながら、地域住民・事業所の相互の働きかけが行われており、地域の活性化にもつながっている。管理者・職員は、福祉拠点としての役割を担いながら、入居者一人ひとりの個性を大切にしたい支援となるよう真摯に取り組み、寄り添うこと、ふれあうことを大切にしたい日々の暮らしが営まれている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
理念に基づく運営				
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1. 明るい笑顔を忘れません 2. 生きがいづくりのお手伝いをします 3. 私たちは支えあう仲間です 4. 幸は地域の輪を広げる出会いの場所です この理念は職員全員で作って実践している。	法人理念のもとに、ホーム独自の理念が開設時に作られており、地域における福祉拠点としての役割を担おうとする、管理者・職員の思いが込められている。地域との相互の働きかけは、地域活性化にもつながっており、理念の共有、実践に向けた取り組みが行われている。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。事業所の広報誌を毎月発行し行事案内等を回覧してもらったり、地域の敬老会やイベントにも参加したり、備品の貸借も気兼ねなく出来る関係を作っている。	災害時の「幸」地域協力隊が結成されていることが、現状の地域との関係性を象徴している。また地域の要請により、3ヶ月に1回、介護教室も開催されており、相互の働きかけのもと、協働関係の構築が進んでいる。隣接する公園や周辺の住宅地では、地域住民との日常的な交流が生まれ、ホーム敷地内の植栽も地域住民の気兼ねない好意により手入れされている。管理者は、近隣小・中学校生徒を対象とする認知症サポーターキャラバン実施にも参画し、また社会科見学等を通じた交流は、日常的なふれあいの機会へとつながっている。1階の地域交流室では、毎月演奏会が開かれており、気軽なお茶会の機会もある。地域向けの広報誌が発行されている。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座のキャラバンメイト講師や地域の公民館へ介護の勉強会に出張講師として出向している。また、地域住民対象の介護教室を3ヶ月毎に開催したり、小中学校の体験学習や社会学習の場として地域貢献している。	
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとの運営推進会議では利用者の状況や活動内容、サービスの実際、評価の報告など行い意見をもらっている。火災や災害時の避難訓練や方法についても積極的に話し合い協力体制づくりを整え、出た意見をサービスに活かしている。	定期開催されている運営推進会議では、活発な意見交換が行われており、特に災害時の協力体制づくりに向けた積極的な話し合いは、現状の地域協力隊結成という成果をもたらす、意義ある開催となっている。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	3ヶ月ごとの介護教室は行政との連携で市の広報誌に毎回案内を掲載してもらっている。地域住民参加の避難訓練も広報誌に載り、地域で守る高齢者の現状を伝えてもらった。市町村との連携はお互いに協力関係が構築できている。	地域包括支援センターとの連携により、認知症サポーター養成講座を近隣の三国中学校で実施し、350名程の生徒の参加の中、認知症啓発活動が行われている。地域住民との連携にて実施されている避難訓練の様子は、モデルケースとして市報に掲載されている。その他、3ヶ月毎の介護教室での連携等、様々な場面における協働が確認できる。

福岡県 グループホーム 幸

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>開設当初から身体拘束をしないケアを行ってきた。管理者および全職員が拘束しないケアが当たり前と理解し実践している。玄関は夜間の20:00～翌朝の7:00までが施錠で日中は常時開錠している。</p>	<p>交通量の多い道路にも面しているが、1階、2階の出入り口ともに、日中の施錠は行われていない。家族や地域への理解を育みながら、外出時にはさりげなく見守り、寄り添う支援が行われている。管理者は、大牟田市の徘徊模擬訓練にも参加している。言葉による抑制についての認識や、車椅子の限定的使用及びその都度の移乗、夜間も無理な睡眠を誘導しない等、本人本位の暮らしの実現、QOLの向上への支援が行われている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>メディアで虐待の報道等があれば、その都度話し合う機会を作り虐待防止の徹底に努めている。職員が外部で研修を受けてくれれば職員研修時に他の職員に報告と同時に勉強会を開いている。</p>		
8	(6)	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護に関する勉強会は定期的に行っており、全職員が学ぶ機会を持っている。新人職員にはオリエンテーション時に勉強するようにしている。管理者は行政と連携して制度の必要な人へ活用できるよう支援している。</p>	<p>日常生活自立支援事業や成年後見制度について、現状として活用事例は無いが、行政の主催する研修に参加している。関係機関との連携により、必要な場合には活用に向けた支援を行えるよう、体制作りを努めている。</p>	
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時はきちんと説明し不安や疑問点がないように理解していただき納得の上で手続きを行っている。また、契約内容に変更が生じた場合は、利用者や家族にその都度十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		
10	(7)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族や親族の方が気兼ねなく意見や要望が言える雰囲気作りを心掛けている。玄関には意見箱として“鶴のひと声”を設けている。ホーム内に第三者窓口のポスターを掲示したり、介護家族の集いへの参加をも勧めている。相談窓口も設置。</p>	<p>職員により「鶴のひと声」と題された意見箱が設置されている。家族が意見を言い難いということを認識しながら、来訪時等のコミュニケーションを大切にしている。また第三者委員等の案内も行っている。</p>	
11	(8)	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月1回の職員会議では職員が発言しやすい環境を作っている。全員が運営に関わっていることを理解しており提案や意見を運営に反映している。職場以外でのコミュニケーションの機会も心掛け働きやすい環境を作っている。</p>	<p>全員常勤という職員体制の中で、管理者による細やかな配慮が行われており、風通しの良い職場環境作りが行われている。毎月の定例会議等において、職員意見の集約に努めている。</p>	
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>一人ひとりの職員が向上心を持って働きやすい職場環境・条件の整備に努めている。</p>		

福岡県 グループホーム 幸

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	(9)	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用は年齢や性別など対象から排除していないが、利用者が女性ばかりの時は同性の介護を提供しているので採用しない場合もあった。事業所の管理者が仕事は楽しく生き生きとすることをモットーにしているため、職員が能力発揮でき自己実現できるよう配慮している。</p>	<p>職員全員が常勤となっており、それぞれの長所や特技が発揮できるよう、個別の配慮に努めている。個別面談を実施し、評価については法人本部へとつなげ、職員のモチベーションの確保に向けた取り組みが行われている。外部研修参加時のサポートや、希望休の取得等、働きやすい職場環境作りへの配慮が行われている。</p>	
14	(10)	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>毎月の勉強会やカンファレンス時、人権を尊重したケアが出来るよう人権教育・啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束や高齢者虐待防止、認知症ケア等についての研修が実施されており、入居者一人ひとりの人権について、職員間で認識を共有している。</p>	
15		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>一人ひとりの能力や向上心を大事に法人内外の研修を受ける機会を確保している。スキルアップのための資格修得にも援助している。</p>		
16		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人内のグループホームとは交流が活発である。また、定期的に事業所で開催している車いすレクダンスや演奏会には他のグループホームにも参加の声かけをしネットワークづくりをしてお互いの職員同士のサービスの向上に取り組んでいる</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>新しい利用者の方には入所前に面談して顔を覚えてもらうことから始め、本人が訴えやすい関係を築き困っていること、不安なことなど傾聴しながら安心できる関係づくりを大切にしている。</p>		
18		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>利用者さんだけではなく家族等の困っていること、要望などにもきちんと傾聴し家族の思いを受け止めている。そして家族とともに利用者さんを支える関係づくりに努めている。</p>		
19		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時、まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>緊急を要する対応が必要な相談があれば、可能な限り他の事業所やケアマネジャーにつなげ他のサービスを含めた対応に努めている。</p>		

福岡県 グループホーム 幸

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所の理念の中に「私たちは支えあう仲間です」と、あげているように、暮らしをともにしながら、教えてもらったり、困っている部分をお互いに助け合ったりして協働できる関係を築いている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月「幸広報誌」を発行し、日々の生活の出来ごとや季節毎の散策で気づいたことなど伝え家族と共に支えあう関係を築いている。遠距離の家族には、本人が手紙を書いたり電話で話せる機会をつくり、本人との絆を大事にしている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の友人がいつでも遊びに来れる関係や住み慣れた馴染みの公園の花見にお弁当持参で出かけたりして、これまでの関係が継続できるよう支援している。利用者の中には馴染みの美容室にパーマに行かれる方もある。	家族との関係性を大切にしながら、かかわりが多く持てるよう、積極的な働きかけを行っている。馴染みの美容室の利用やお墓参り、冠婚葬祭への出席等を支援している。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の食事やお茶の時間には職員も一緒に同じテーブルを囲んで食べたりお話ししたりして利用者同士の関係がうまくいくよう支援している。お互いが助け合い、できない部分を支えあうように職員が見守り調整役をしている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了された方にも夏祭りや行事の案内の声かけをして遊びに来れる関係を築いている。終了したご家族から、お花や手作りのお菓子や野菜を頂く事も多い。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いをうまく伝えられない利用者には、本人の表情や行動から汲み取ったりして本人の思いを大事にするようにしている。また、家族等から情報を収集したりして本人の意向を把握するよう心掛けている。	家族等の協力も得ながら、センター方式を一部活用したアセスメントを実施している。生活習慣や個々のペースを把握し、一人ひとりのその時々々の思いや願いを大切にしたい、個別ケアの実践に努めている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴や生活環境など、家族やサービス事業者から情報収集し把握して出来るだけ本人の馴染みの生活環境に近づけるよう努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のペースを大事にして一人ひとりの一日の過ごし方を大切にしている。心身状態は毎日バイタルチェックで把握し、本人の出来る面にスポットを当てて本人が生きがいをもち負担を感じないで自分らしく暮らせる環境づくりに努めている。		

福岡県 グループホーム 幸

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者ごとの担当は決めず、本人や家族、かかりつけ医などの意見やアイデアを基に全職員で話し合い気づきや情報交換を行い、現状に即した介護計画を作成している。月1回のモニタリングもやっている。	本人・家族の意向を踏まえ、関係者の意見も求めながら、個性ある具体的な内容が記された計画作成が行われている。毎月、モニタリング・評価を実施し、現状の確認及び見直しにつなげている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を個人ファイルに記録している。小さな気づきや変化や工夫は記録に残し、全員で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の付き添い、入院時の毎日の面会と洗濯物の持ち帰り、お葬式に出席されるための送迎、お墓参りや馴染みの場所への付き添い、危篤状態に陥られた時の家族の宿泊など本人や家族の状況に応じて柔軟な支援に取り組んでいる。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災関係では地域の住民による幸の協力隊を結成し、民生委員や区長さん始め地域のふれあいネットワークのメンバーさん達が避難訓練にボランティアで参加されたり、地域の小・中学校の学習の場として協働出来るよう支援している。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の要望を優先して、利用者各自のかかりつけ医と連携しながら適切な医療を受けられるよう支援している。現在、3人のかかりつけ医が往診に見えている。	入居者・家族の意向によるかかりつけ医を尊重し、密な連携や情報共有、また服薬調整等に関する積極的な意見交換を行っている。日々の暮らしの中での「気づき」や「観察力」を大切に、状況の変化にいち早く対応できるよう努めている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、契約している訪問看護SSが週1回訪問しているが一人ひとりの変化や気づき等情報を伝えたり、相談して適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、必ず毎日面会に行き状態把握に努め、早く退院できるよう支援している。病院が家族に状態説明等がある時も、家族の了解のもと同席させてもらっている。医療関係者とは情報交換を密に行い関係づくりをしている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化していく可能性が見えた段階から本人や家族等と方向性を話し合い、事業所で出来ることを十分に説明し納得された上で要望を優先している。看取りケアに向けて、かかりつけ医・訪問看護・家族・職員等で方針を共有し連携して本人らしさを大事にするケアに取り組んでいる。	本人、家族の意向に寄り添うことを大切にしており、これまでにホームでの看取りを行った経緯もある。少しずつ重度化していく中で、状況の変化に応じた話し合いを重ねながら、本人、家族の意向や、最期までその人らしい暮らしを支援していくことを大切にするために、関係者間で方針を共有している。	

福岡県 グループホーム 幸

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が年1回は応急手当の勉強会を実施している。また、事故が発生したら職員の勉強会で対策について話し合うようにしている。夜勤時の緊急時の対応についてマニュアルを作成し、業務前に確認するよう周知徹底させている。AED設置。		
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成している。年2回利用者と共に地域住民も参加していただき避難訓練を実施している。地域協力隊を結成し、連絡網も作成して昼夜問わずに協力していただける体制を築いている	地域住民による災害協力隊が結成されており、緊急連絡網の中に組み込まれている。地域住民が自宅待機の状態から避難訓練を実施する等、より実践的な訓練の様子は、消防署の提案によりモデルケースとして市報にも掲載されている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者には尊敬の念を持って接するようにしている。本人のプライドを尊重した対応を心がけ、毎月の職員会議では、職員側での声かけや介護をしていないか話し合っている。常に自分が介護される側として対応するように心がけている。	入居者一人ひとりの方々にとっての時間の流れを大切に、業務優先とならないよう、振り返る機会を持っている。居室への入室時や、排泄・入浴時の対応、声かけの仕方等、個々の尊厳を大切にした支援となるよう、職員への意識付けが行われている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの思いや意思を大事にしている。例えば、買い物に行きたい方、行きつけの美容室でパーマしたい方、自由に散歩したい方、自分の好きな嗜好品を食べたい方などその人の希望が表出出来るよう働きかけている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしさは一人ひとり違うのでその人のペースで生活してもらうように心がけている。朝、ゆっくり眠っていたい方、お腹がすいていないので時間をずらしたい方、自分の部屋でゆっくり過ごしたい方など、利用者側の希望に添って支援している		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合せたオシャレや身だしなみができるよう家族と共に支援している。外出や行事時はいつもよりオシャレやお化粧品など支援している。また、1～2か月に1回、ボランティアによるビューティケアを実施中。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備段階から出来ることを一緒にしてもらったり、盛り付けや食器の片付けなど家族の一員として手伝われている。献立は利用者の好みを反映させ、食事は同じものを同じテーブルで職員も一緒に食べ食事時間を楽しんでいる。	入居者の嗜好を検討しながら、職員による献立が作成されており、定期的に栄養バランス等の確認が行われている。準備や後片付け等に個々の力を発揮してもらいながら、職員と共に食卓を囲み、和やかな食事風景があった。	

福岡県 グループホーム 幸

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量や水分を把握している。嚥下機能が低下した人、咀嚼力が低下している人などその人の状態に合わせた食事を提供している。定期的に管理栄養士にバランスのチェックも依頼している。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の状態に合わせて口腔ケアの手入れの介助をしたり、声かけにて清潔保持に努めている。本人の能力に応じたケアを心がけている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレでの排泄を基本に利用者一人一人の排泄パターンや習慣を活かして排泄ケアの支援をしている。現在、寝たきりの方以外は、トイレ排泄で対応している。	排泄パターンや状況の把握、また個別のサインを見逃さないように努めながら、個々に応じた排泄ケアの支援を行っている。よく会話し、よく笑いながら暮らしていくことは、腹圧を高めることにもつながり、また、食材や飲み物の工夫、水分量の確保等により、自然な排泄となるよう取り組んでいる。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の対策として飲食物の工夫や適度な体操、毎朝の食事前後のトイレに座る習慣などを取り入れている。トイレに座って腹部マッサージが必要な方など個々に応じて対応している。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は利用者の体調に合わせて対応している。入浴拒否の人はいず、たまに入浴したくないといわれる方には無理に入ってもらわず柔軟な対応を心掛け、入浴時間が楽しくなるように支援している。	行事の多い日曜日以外は、毎日入浴準備を行い、それぞれの方々の希望や状況にあわせた柔軟な対応を行っている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の生活ペースに合わせて短時間の昼寝をする人や好きな時に安心して休息できるよう支援している。利用者全員が眠剤は使用せずに夜間は気持ち良く休まれている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬記録を綴じ込み職員が内容の確認が出来るようにしている。また、受診時に薬の変更があった場合は必ず、個人ファイル・申し送りノート・業務日誌・医療処置ノートに記録し全職員の周知徹底と症状の変化の確認をしている		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	縫物が得意な方には雑巾を縫ってもらい、地域の小学校との交流時にプレゼントしている。また、折り紙や貼り絵などの作品を孫に贈ったり、茶道の師範だった方にはお手前の作法を教えてもらったりして張り合いや喜びにつなげる支援をしている		

福岡県 グループホーム 幸

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブなどその日の要望にそって外出できるように支援している。季節毎の花見にはみんなでお弁当を作って地域の公園や、近郊地に出かけている。また、大型ショッピングセンターに衣類を購入にでかけたり、外食に出かけたりして気分転換を図っている。	隣接する公園や周辺の散策には日常的に出かけており、一人での散歩を希望する方には、近隣住民の協力も得ながら、職員が少し離れてさりげなく見守るようにしている。誕生日には、個別支援として希望する場所への外出支援を行っており、国立博物館へ出かけたり、ラーメンを食べに行ったりと、希望をかなえる支援を行っている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る人は自分でお金を所持されている。管理が出来ない方は、事業所で預かり、買い物や外出時に自分でお金を使えるように支援している。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で電話をかけたいと希望あれば、電話をかけて話してもらったり、手紙やはがきのやり取りができるよう支援している。毎年、年賀状は、直筆で利用者に書いてもらい投函する援助をしている。		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはソファを設置し畳コーナーもあり、好きな場所でゆっくり過ごせるように工夫している。季節感のある草花を飾り、金魚も水槽に飼っている。落ち着ける環境づくりを心掛けている。	高い天井には天窓が設けられており、明るく開放的な共用空間となっている。入居者、職員の程よい距離感の中、落ち着いた家庭的な空間作りが行われている。また、ソファや畳スペースも設けられており、それぞれの方々のくつろげる場所が確保されている。ベランダ下の広いスペースにもベンチが設置されており、雨天時にも活用できる。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者一人一人が気兼ねなく過ごせるようにソファ以外にも、所々に椅子を設置し好きな場所で過ごせるよう工夫している。		
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室はその人が居心地良く過ごせるように家族と相談しながら筆筒や飾り棚、テレビなど持ち込まれている。お位牌やアルバムを持参されている方もあり、本人の好みを大事にしている。	家族とも相談しながら、それぞれの方々にとっての馴染みの家具(筆筒・椅子等)や、遺影、位牌等の大切なものを部屋に置くことで、居室として安心して過ごせるように配慮している。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎月の職員会議で利用者一人一人の出来ること・出来なくなったことなど話し合い、どうしたら現状レベルを維持できるか、環境をどう工夫すればよいか等出来るだけ自立した生活を安全に送ってもらうためのアイデアや対応に工夫している。		